

ISIS（イスラム国）はアメリカ・イスラエルとつながっている、という説にびっくりする

2015/3/23

須田 稔

アルカイダ、アルヌスラ戦線、ISIS、イラン（シリア派）傘下のシリア政府軍、イラク民兵、ヒズボラ、米欧に支援されたクルド軍、これら組織の関係が頭に入るのはいつのことやら、と無然となるのですね。離合集散、敵対と同盟、そもそもこういう「戦国時代」を興隆させたのは、アメリカではないか、という疑問だけは確固として深まるばかりなのですが。

2012年末にアメリカはアルヌスラを「テロリスト組織」に指定した、といえます。アルヌスラはイスラエルを敵だと名指したのですが、一四年6月に国連監視軍は、イスラエルがアルヌスラを支援しているとの報告書を出したのですね。魑魅魍魎の世界。

イスラエル軍はシリア・イラン連合軍を食い止めるために、1月末に無人戦闘機をゴラン高原近くのシリア政府軍の拠点を空爆、ヒズボラ兵士やイランから来ていた軍事顧問を殺害。実はアルヌスラがイスラエルに要請しての空爆だったと。それで、シリア政府は「イスラエル空軍はアルカイダの空軍になった」と非難したと。シリア・イラン連合軍がゴラン高原の停戦ラインをアルヌスラから奪還しようとしたのを、それを阻止するためにシリア・イラン連合軍をイスラエル軍が空爆したのに、米国のマスメディアは、「ヒズボラがイスラエルを攻撃しそうなので、先制的に空爆した」と報じて事態を隠した、というのですね。

戦争屋の偽装・隠蔽・欺瞞の宣伝戦の十字砲火で、眩惑させられる私たち庶民です。

元米軍大将ウエスリー・クラークが最近米国のテレビに出て、「ISISは当初から米国の同盟諸国や親米諸国から資金をもらってきた。支援する理由は、ヒズボラの台頭を防ぐためだ。ヒズボラを最も怖れているのはイスラエルだ」と語ったという。

サウジは以前、米国に頼まれてシリア反政府勢力を支援。しかし2010年、米国がアサド政権を許認可したとき、サウジはアサドを自国で歓待、和解。が、米国が再び反アサドになったのでサウジも従った。米国がアルカイダやISISを支援するとサウジも同

調した、いまは、ISISはサウジにとって大きな脅威ということになるのですね。

オバマ大統領はイスラエルに牛耳られた中東戦略によるイラク侵攻体制からの脱却を望み、イラクからの軍事撤退を強行。しかし、国防総省や共和党多数の議会など軍産複合体はこれに反対、イスラエルと結託してISISを作らせ、米軍の軍事介入を余儀なくさせる、中東戦争恒久化を策している、と。ISISは、イスラエルの敵ヒズボラと戦ってくれるのだから、と。

軍産複合体とイスラエルが、イランに核開発の濡れ衣を押しつけてきた。オバマはイランへの経済制裁を解き、ISISを潰せる力をイランが持てるよう核交渉をまとめようとしている。これに対して、イスラエルのネタニヤフは訪米して議会でイラン非難演説をし、オバマに圧力をかけた。米国の世界戦略をイスラエルが隠然と牛耳ってきたことを暴露したことになった、と。

パキスタンで戦士の勧誘に当たっていたISIS幹部がパキスタン当局に逮捕され、自白した所によると、米当局はISISが一人戦士を勧誘することに旅費などとして500〜600ドルをISISに渡してきた。つまり、ISISやアルカイダは米国とイスラエルが育ててきた勢力ということ。

事態は、中東の不安定化や戦争状態を画策する軍産複合体・アメリカ議会多数派・イスラエル・ISISアルカイダ連合と、安定化と停戦を画策するイラン・中ロ・アサド・ヒズボラ・オバマ連合体との対立になっっているのだという。

日本はオバマ大統領府でなく、軍産イスラエル複合体に従属する国になっている。イスラエル政府は、日本人を殺害しようとするISISを非難し、日本と協力してISISと戦うと表明したが、実際はISISやアルヌスラを支援しているのだと。

テロリストが米国の世界支配を維持してくれるというわけだ。広範な国民運動を潰してくれるからと極左・極右暴力集団を飼育・支援する日本の支配勢力を忘れてはならない。

『謀略国イスラエル』にのこのこと接近してはあぶないと、ジャーナリスト田中宇氏は2月22日のブログで警告するのです。